

移住・定住対策への取り組み

飯山市誕生から50年あまり。昭和29年の発足当時4万人を超えた人口は、子供の減少や若者のふるさと離れなどにより、現在は約2万5000人に減少しています。

こうした状況から、市では移住・定住対策による人口増加に向けた取り組みを行っており、昨年からは「いいやま住んでみせん課」を創設し一層力を注いでいます。今回は市が取り組む団塊の世代をはじめとした市の移住・定住促進の取り組みをお知らせします。



「飯山まなび塾」。都会に住む皆さんが飯山で田植えを体験。

「交流人口拡大」から「移住・定住人口の拡大」へ

飯山市では、豊かな自然や、農作業などを都会の皆さんに体験してもらいながら、都市と農村の交流を行う「グリーンツーリズム」に10年以上前から全国に先駆けて取り組んできました。

平成9年7月にオープンした「なべくら高原 森の家」は、さまざまな体験メニューでグリーンツーリズムの拠点となっており、多くのファミリー客などが訪れています。また民宿を活用した小中学生の受け入れも盛んで、飯山の「お父さん・お母さん」を先生に田んぼや畑での農作業や、そば打ちなどの学校生活ではできない貴重な体験の場として定着しています。飯山ではこ



④オープンからちょうど10年が経過した「なべくら高原 森の家」。四季の変化に応じた体験メニューが人気。

うした「体験と交流」で都市と農村をつなぐ、飯山型グリーンツーリズムの形が築き上げられました。そうした交流人口拡大の半面、年々減少傾向にある飯山市の人口。これに歯止めをかけようと、グリーンツーリズムで培った仕組みを基盤に、都会から飯山へ移り住んでもらおうという取り組みが始まりました。

「住んでみせん課」は飯山市の営業マン

市ではこれまでも、移住を希望する方々に向けた支援を積極的に行ってきた。しかし、担当課ごとに別々に取り組まれるなど、都会に住む人々に向けた宣伝などは十分にできていませんでした。

そこで今年4月からは移住者への情報提供や支援などの窓口を住んでみせん課に統合。専任の職員を3人に増強し、一層取り組みを強化しています。住んでみせん課では、飯山の営業マンとして、都会で移住希望者を対象としたセミナーを開催し、市の移住者向けの優遇制度の説明はもちろん、区への加入や自然の厳しさなど田舎暮らしの心構えや、実際に移住した人の話を聞いて



③7月に東京で行われた自治体セミナーにも参加。都会で飯山をPRした。

もらうなどして、飯山をPRしています。

また飯山での体験プログラムも実施。「飯山まなび塾」では、春・夏・秋・冬でそれぞれ飯山を体験できるプログラムを用意。田植えの後に「きなこむすび」を食べたり、冬は「やしうま」を作ったりと、私たち市民でさえ最近忘れかけている飯山の暮らしを体験することができます。

市民にとっても「住み続けたい」と思える地域に

飯山市の人口は平成18年から19年にかけて1年間で約400人が減少しています。それに対して、昨年新設した定住・回帰支援住宅建設促進事業による移住・定住者は11組35人、昨年11月から住んでみせん課に相談し移住してきた方は3組10人、また住んでみせん課が現在相談を受けている方も10組30人ほどで、移住対策だけで人口の減少に歯止めをかけることは簡単ではありません。

市では、市民にとって「住み続けたい」と思える地域



④季節ごとに開催されている「飯山まなび塾」。観光・農作業などを通して飯山の生活を学ぶ。

住んでみせん課ではイベントでのPR、体験ツアーでの講師のほか、移住希望者の個別の相談にも応じるなど、飯山の営業に飛び回っています。

づくりに一層力を入れて取り組んでいます。そのための環境整備として、雇用確保のための企業誘致、市営住宅建設などの住宅施策の充実、子育ておうえん券や福祉医療費特別給付金の対象を小学校3年生までに引き上げるなどの子育て支援や、福祉施策などを今年度の重点取組目標に掲げ、定住のための環境整備にも力を注いでいます。

今後、移住対策と定住対策、双方の強化により、人口の維持・増加に向け取り組みを進めます。

全国に先駆けた移住への取り組み

平成14年、飯山を舞台に制作された映画「阿弥陀堂だより」が全国で公開。物語は、都会の生活に疲れきっていた主人公が、美しい自然で心身が癒されていくというもので、ロケ地である飯山の豊かな自然を体感しよう、中高年を中心に多くの観光客が訪れるようになりしました。

その頃都会の人々の間では、第一次ベビーブームに誕生した「団塊の世代」の大量退職を控えていたことなどから、定年後の第二の人生を田舎で送ることに注目が高まってきました。そうした背景もあり、飯山市は平成15年に全国の地方都市に先駆け「飯山市ふるさと回帰支援センター」を



⑥映画で使われたセットが残され、今では飯山の風景の象徴的な存在となっている、瑞穂・福島のア弥陀堂。



⑥ホームページなどを活用し、移住に関する情報を提供している飯山市ふるさと回帰支援センター

設立。JA北信州みゆき、市観光協会等と連携しながら、移住に関する情報の提供や農家民宿を活用した農業体験ツアーなどを通じて、都心に住む方々が思う「ふるさと」の原風景が多く残る飯山の自然や温かい人情などをPRし、飯山への移住を呼びかけてきました。そして昨年11月、市ではこうした移住・定住対策の更なる強化のため「いいやま住んでみせん課」を新設。

わかりやすい特徴ある名前、自立計画の柱である「人口2万5000人の維持・増加」に向けた取り組みを行っています。

飯山市内定住・回帰支援住宅建設促進事業

飯山市へ移住し、新たに住宅等を建設・購入等する方へ建設費等を支援します！

お問い合わせ

市役所いいやま住んでみせん課
☎ 62-3111 内線 252

中古住宅の購入に対する支援内容

■購入資金借り入れへの補助

中古住宅を取得するために購入資金を借り入れた方に1500万円を上限に、借入金の3%相当額を3年間補助。
(上下水道区域内で、市長が認めた区域にある建物に限ります。)



個人住宅の建設に対する支援内容

■建設費補助

年間45万円を建設初年度から5年間補助。

■上水道加入金補助

105,000円を上限に、加入金相当額を補助。

■下水道負担金等補助

下水道負担金等相当額を補助。

■CATV加入金補助

21,000円を上限に、加入金相当額を補助。

○対象となる土地

土地開発公社用地、民有地(上下水道区域内で、市長が認めた区域にある土地)

○住宅要件

・市外から新たに転入しようとする方、または市外から転入10年以内で、かつ現在賃貸住宅に居住している方が建設する住宅
・事業者が定住対策を促進するため、自ら建設し販売する住宅